

高齢女性の配偶者死別とライフスタイル

ウメサキ 梅崎
カオル 薫*
ソウケジマ 益島
シゲル 茂^{2*}
セキネ 関根
ミチカズ 道和^{3*}
ナルセ 成瀬
ユウチ 優知^{4*}
カガミモリ 鏡森
サダノブ 定信^{3*}

目的 わが国では、高齢期の配偶者死別の影響に関する研究で、ライフスタイルへの影響に関する研究は少ない。高齢期の配偶者死別は女性に多く生じるので、夫と死別した高齢女性のライフスタイルの特徴を明らかにすることを目的とした。

方法 T県4市3町で1994年に夫と死別した高齢女性と、1995年前半の調査時に配偶者が生存していた高齢女性に対し、訪問面接調査を実施した。対照である有配偶女性は、回答した死別女性の年齢、居住地域をマッチングさせて選定した。死別後に家族構成が変化もしくはその可能性がある者を除外して、死別女性872人と有配偶女性643人の計1,515人を分析対象とした。死別前家族構成と年齢階級を組合わせて「夫婦のみ家族」の前期高齢女性と後期高齢女性、「夫以外が同居する家族」の前期高齢女性と後期高齢女性の4層に層別した。死別女性での有配偶女性に対する、好ましくないライフスタイルのオッズ比を、既往疾患の有無と、身体的移動能力を多重ロジスティック回帰分析を用いて調整して、求めた。

結果 死別高齢女性に、「家庭内役割がない」、「趣味がない」、「友人交流がほとんどない」、「ほとんど運動しない」、「眠れないことが多い」、「食事が不規則」という好ましくないライフスタイルを認めた。また家族構成と年齢階級を組み合わせた4層での分析から、「夫以外が同居する家族」からの死別女性にも好ましくないライフスタイルを認めた。「夫以外が同居する家族」で死別した女性では、「家庭内役割がない」、「眠れないことが多い」というライフスタイルが認められた。

結論 配偶者と死別した高齢女性は有配偶の高齢女性に比べて、好ましくないライフスタイルを持つものが高率であった。また「夫以外が同居する家族」での死別女性にも好ましくないライフスタイルを認めた。高齢期に夫と死別した女性に対し、予防的視点から、健康に好ましくないライフスタイルへの保健指導や、予防的な福祉活動および福祉サービス提供等の支援体制を確立する必要がある。家族と同居していて配偶者と死別した女性にも支援の必要性が明らかとなった。

Key words : ライフスタイル, 配偶者死別, 高齢女性, 家族構成, 前期高齢期, 後期高齢期

* 金城大学社会福祉学部

^{2*} 京都大学大学院医学系研究科社会健康医学理論疫学

^{3*} 富山医科薬科大学医学部保健医学

^{4*} 富山医科薬科大学医学部地域老人看護学
連絡先：〒924-8511 石川県松任市笠間町1200
金城大学社会福祉学部 梅崎 薫